

日高町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

日高町においては、地域間幹線系統である路線バスは乗車率が低く、民間バス事業者の赤字分を町が補填しながら町民の足を確保している状況であり、また、高齢化率は、全国全道の平均を大きく上回っているため、自家用車での移動が難しい高齢者等の移動の足を確保することが必要である。

このような状況のなか、効率的で利便性の高い公共交通の確立を目指し、「日高町地域公共交通総合連携計画」を平成21年度に策定し、平成22年度には予約運行方式による町営バスの実証運行を実施し、平成23年度から地域間交通ネットワーク又は地域間幹線系統に接続する日高町デマンドバス（フィーダー系統）の本格運行を開始している。

このため、地域公共交通確保維持事業により、高齢者等の移動手段を確保・維持することで、生活交通手段を存続させていく必要がある。

地域公共交通の現況

【日高地域】

- ・日高町町営バス [千栄線、岩内ダム線、占冠線、日高門別線、町内循環線]
- ・道南バス [日高縦貫線]

【門別地域】

- ・日高町町営バス [広富線、豊郷線、清畠線、厚賀富川線、厚賀太陽線（新冠町共同運行）]
- ・道南バス [日高沿岸線、日高縦貫線]
- ・スクールバス [緑ヶ丘線、門別西線、福満線等]
- ・ジェイ・アール北海道バス [とまも号]

生活交通確保維持改善計画の目標

【目標】 高齢者にとって利用しやすい交通体系の整備

高齢者等にとって利用しやすい、安全・安心な交通体系を築き、外出しやすいまちづくりを行うことで、高齢者等の移動に関する満足度の向上を図り、（日高地域）千栄線：71.3人/月、（門別地域）広富線：128.3人/月、豊郷線：40.9人/月以上の平均利用者の維持を目指す。

令和7年度事業概要

■日高地域

路線名	運行路線	運行便数	運賃	備考
千栄線	日高総合支所⇄伊沢宅前	2.5往復/日	200円/回	予約運行方式

■門別地域

路線名	運行路	運行便	運賃	備考
広富線	鳩内⇄富川高校	2往4復/日	200円/回	予約運行方式
豊郷線	新生⇄富川高校	2.5往復/日	200円/回	予約運行方式

協議会開催状況

- 令和7年5月23日 第1回協議会
 - ・令和6年度事業報告、決算等について
- 令和7年6月27日 第2回協議会
 - ・地域内フィーダー系統確保維持計画等について
- 令和7年12月25日 第5回協議会
 - ・地域内フィーダー系統に係る事業評価等について

※日高町地域公共交通活性化協議会のうちフィーダー系統確保維持事業に係るものを記載

令和7年度事業の実施状況

(1) プロセス、創意工夫

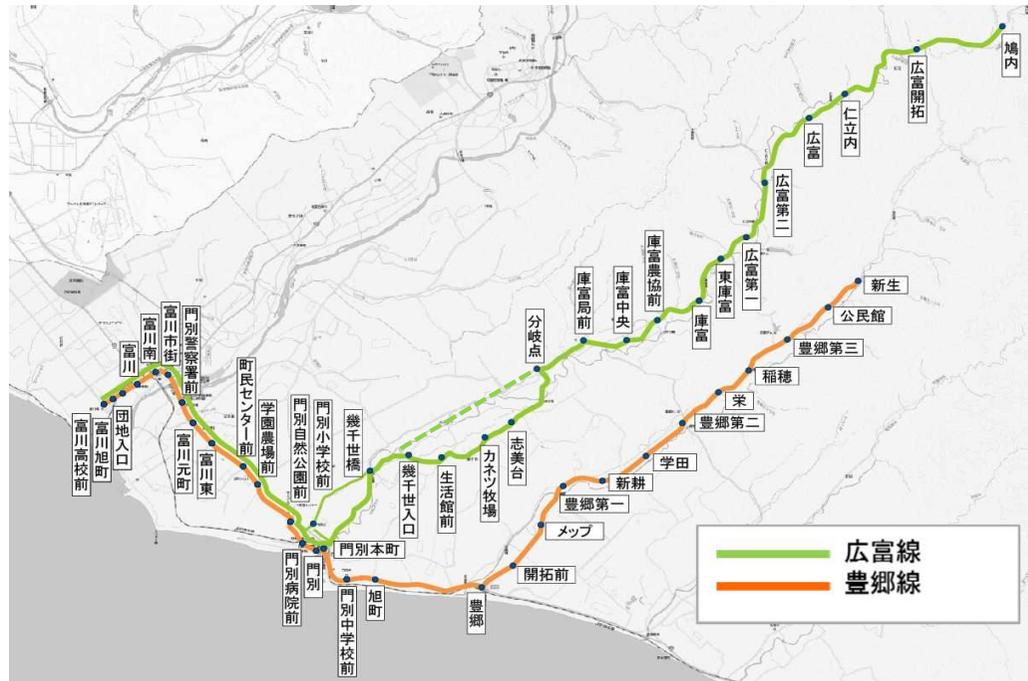
- ・運行業務受託業者に対する定期的なヒアリングにより利用者のニーズを把握し、効率的な運行方法やダイヤ改正について継続的に検討を行った。
- ・運転手へ口頭での予約受付の実施及び高齢者向けに民生委員等による予約サポート体制を実施した。
- ・デマンドバス等予約アプリの導入に向けた取組及びバスの利用促進に向けた取組として、高齢者を対象としたスマートフォン教室を実施した。
- ・老人クラブ、自治会等へのAIデマンドバス「すこバス」の登録、利用方法、スマートフォン操作方法の「出前講座」の実施した。
- ・AIデマンドバス「すこバス」の実証運行に向け、幾千世、庫富、広富、豊郷、清島地区と日高、千栄地区において9月から10月に住民説明会を実施した。
- ・AIデマンドバス「すこバス」の導入に向け、広富、豊郷、清島地区及び日高地区において実証運行を令和7年10月から12月まで実施した。
- ・町営バスの利用方法、また、地域間幹線系統と地域内フィーダー系統の乗り継ぎがわかる時刻表を作成し、町ホームページへ掲載した。
- ・感染症対策として利用者に対する消毒液等をバス車内に設置し、安心安全なバス運行を実施した。

(2) 運行系統

■ 日高地域



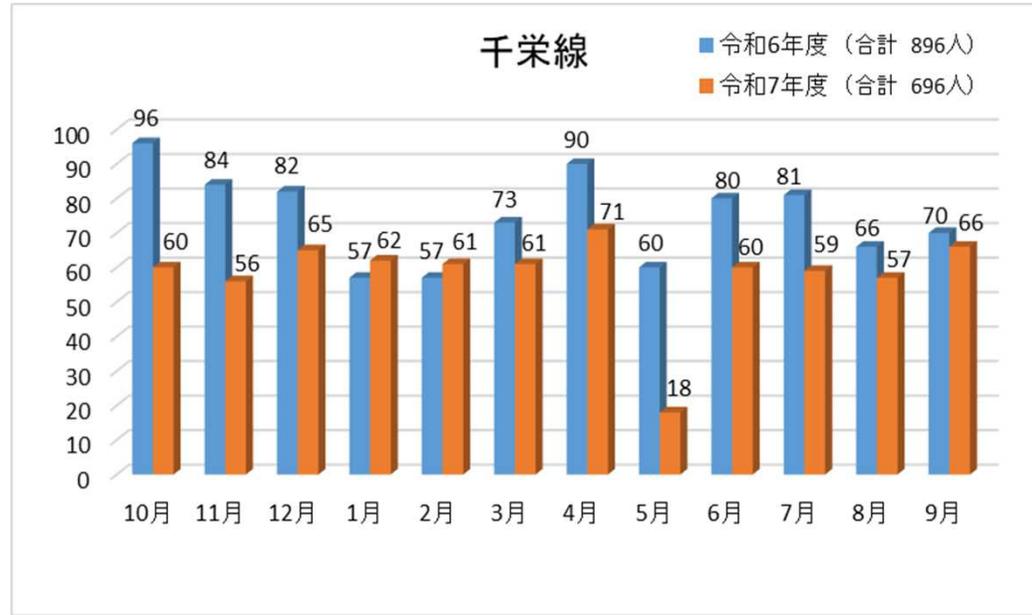
■ 門別地域



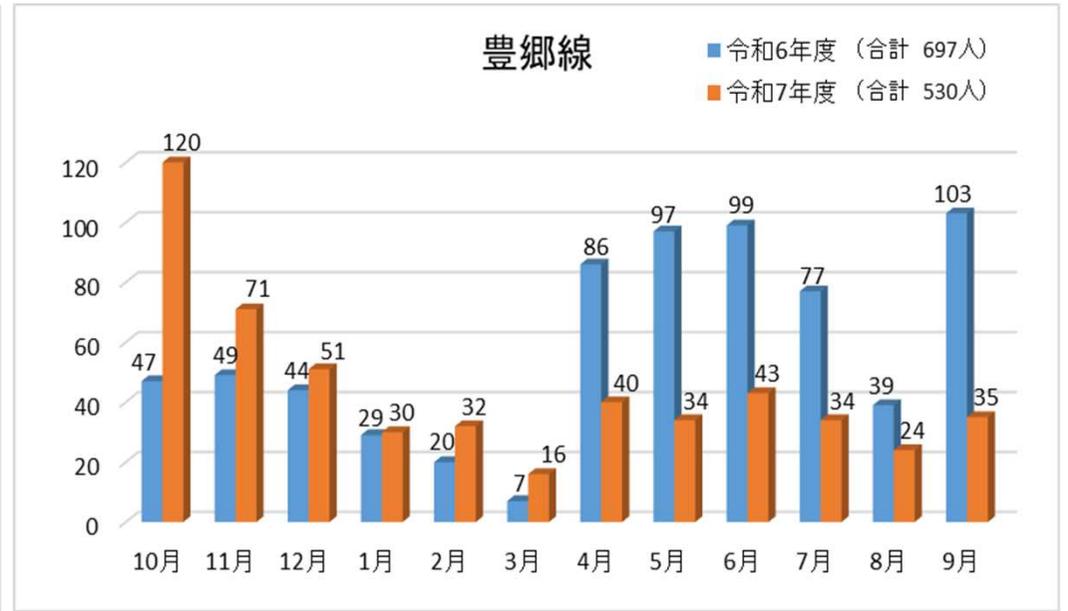
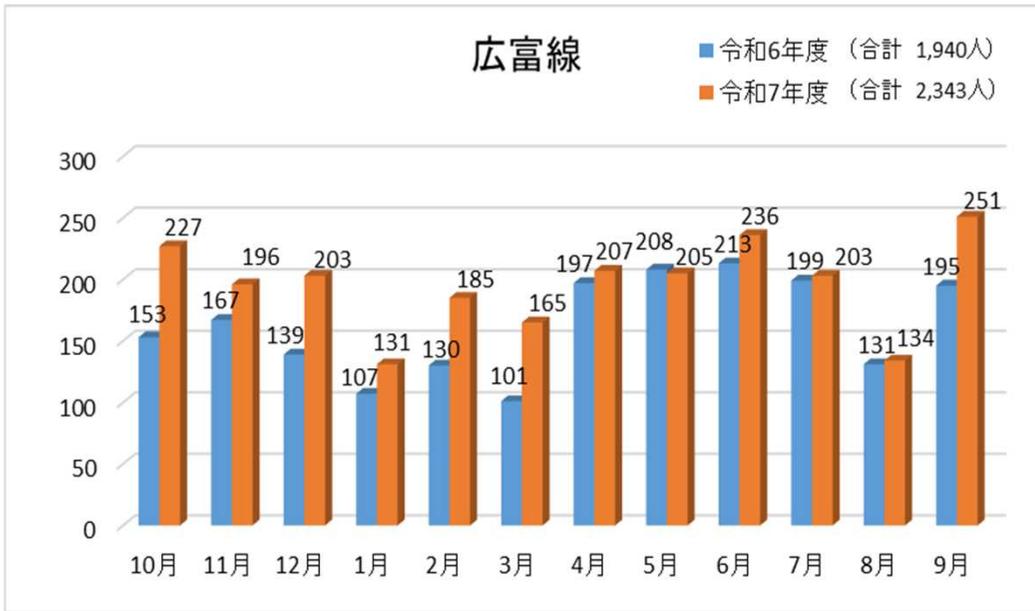
3) 利用実績

■ 日高地域

(単位：人)



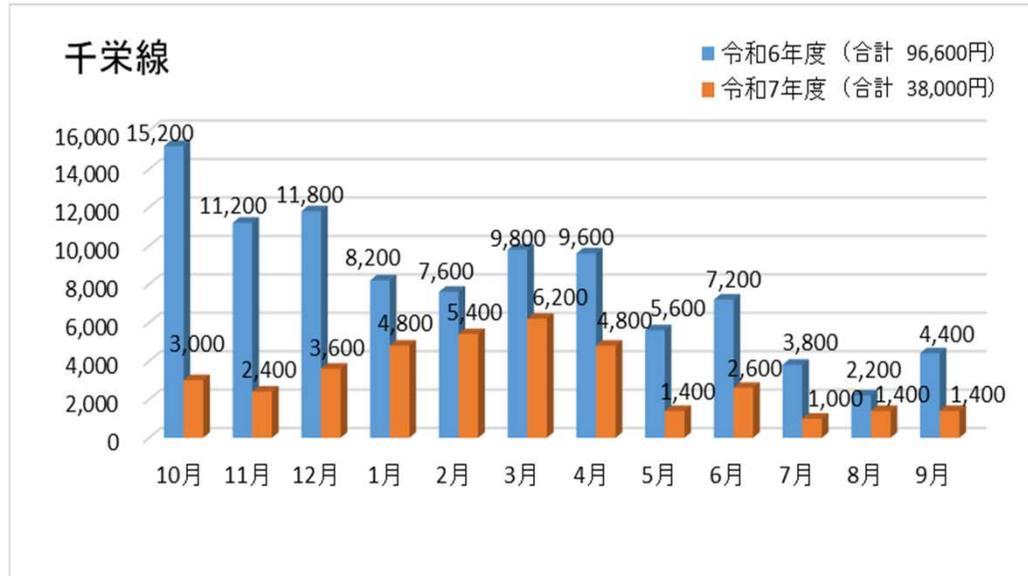
■ 門別地域



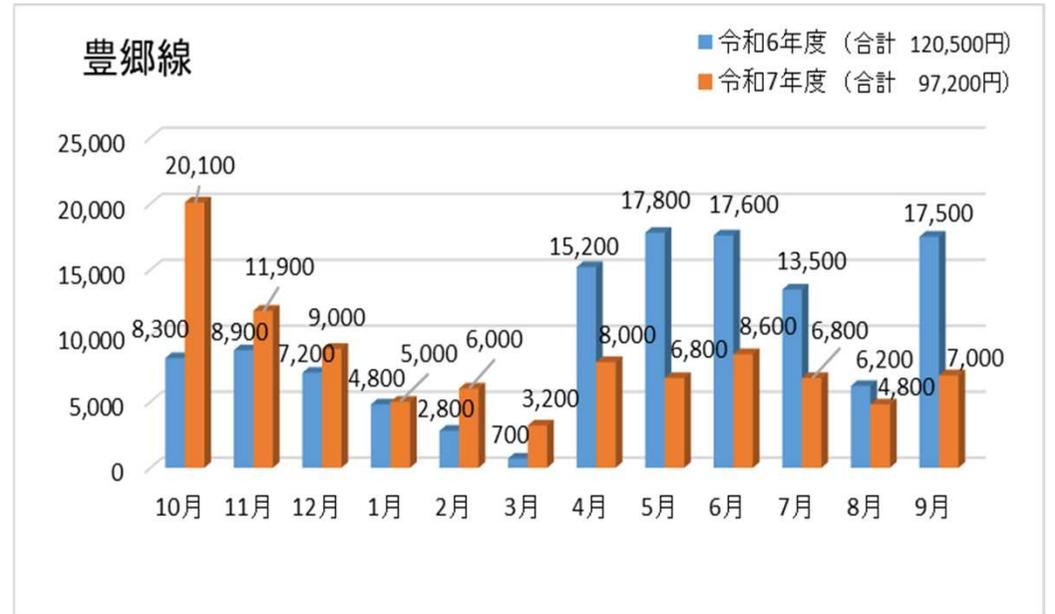
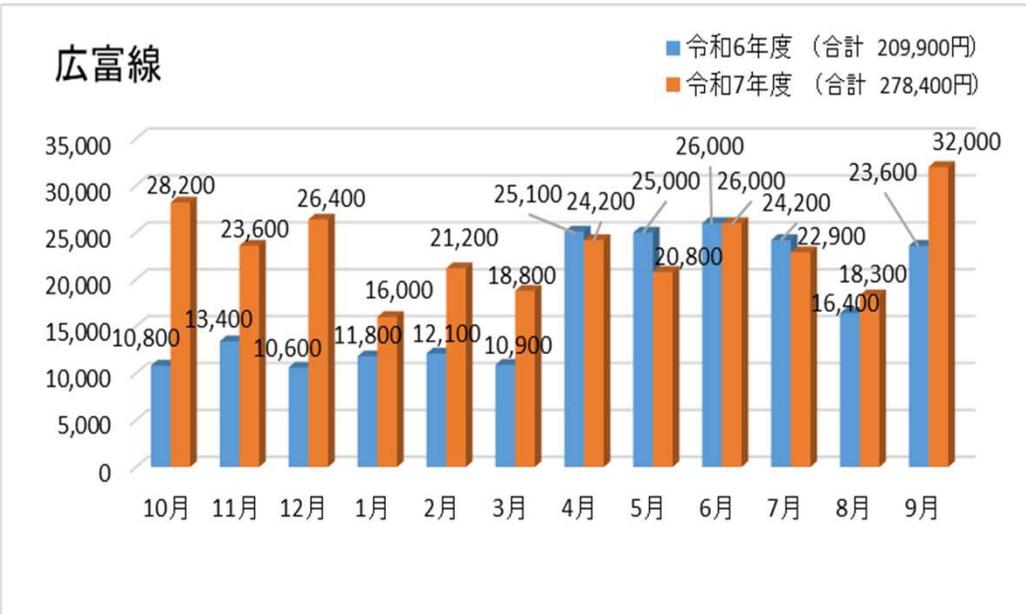
4) 収入実績

■ 日高地域

(単位：円)



■ 門別地域



5) 事業実施の適切性

- ・計画どおり事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

・千栄線は利用者数が58.0人/月であり、目標の71.3人/月と比べ81.3%の達成率で目標数値を下回る結果であった。地域住民の減少や外出機会の減少が大きな要因となっており、年間通して利用してもらえるサービス内容を検討し、利用者の増加を目指す。

・広富線は利用者数が195.3人/月であり、目標の128.3人/月と比べ約158.4%の達成率で目標数値を上回る結果であった。通学や通勤で利用している方も多いため、次年度以降も利用促進に繋がる取組を継続し利用者の増加を目指す。

・豊郷線は利用者数が44.1人/月であり、目標の40.9人/月と比べ約107.8%の達成率で目標数値を上回る結果であったが、前年と比較すると利用者数167人の減であった。安定した利用者数を確保していくため継続した取組を実施していく。

・現状は高齢者の病院、買い物の移動手段、学生の通学や地域住民の通勤手段として定着しているが、安定した利用者を確保していくため、サービス内容を改善し、令和6年度に策定した地域公共交通計画により継続した運行を実施していきたい。

7) 事業の今後の改善点

・路線バスや町営バス及び送迎交通等が重複しながら運行している状況に対し、区域運行によるA I デマンド交通等を主とした輸送手段の一元化を目指しながら、高齢者等交通弱者の快適な生活環境を確保し、一定の利用者数を維持する。

・令和7年10月オープンした富川市街地複合施設「とみくる」のバスターミナルを交通拠点の中心として公共交通の利便性を向上させ、地域住民の満足度を増加させる。

・少子高齢化社会に対応していくため令和6年5月策定の日高町地域公共交通計画による最適な広域公共交通路と地域のきめ細かな輸送サービスとのネットワークにより、「公共交通利用の促進」と「健康づくり」と「地域経済の消費」を結び付けた、A I を活用した持続可能な公共交通を展開する。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・千栄線の目標を達成することができなかったが、今後も地域公共交通計画に基づき、利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率や公的負担額といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。